



2019年（令和元年）8月5日発行

特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

あきたスギッチファンド 通信 No.33

あきたスギッチファンドの活動（4月～8月）

4月14日～5月14日	少子化対策応援ファンド 募集
4月25日	総会 於：パーティーギャラリー・イヤタカ
5月6日～6月6日	第21回本ファンド助成事業 募集
6月18日	第16回チャリティ・ゴルフコンペ in 樺台 於：秋田樺台カントリークラブ
6月19日	少子化対策応援ファンド 審査会 於：遊学舎
7月6日	第21回本ファンド助成事業 審査会 於：遊学舎
7月11日	東北六県商工会議所女性会連合会 寄付金贈呈式 於：アトリオン音楽ホール

* スギッチファンドの7月末現在の寄付金総額は、**849,038円**です。
多くの皆様のご支援に感謝申し上げます。

今後の予定

10月10日	第17回チャリティ・ゴルフコンペ in 樺台 於：秋田樺台カントリークラブ
10月1日～11月1日	第22回本ファンド助成事業 募集
12月1日	第22回本ファンド助成事業 審査会 於：遊学舎



6月6日（木）田口良実氏より30万円ご寄付頂きました。これからの助成金の一部にさせていただきます。ありがとうございます。



7月11日（木）東北六県商工会議所女性会連合会総会がアトリオン音楽ホールで開催され、席上であきたスギッチファンドに10万円のご寄付を頂戴しました。菅原理事長がお礼の言葉を申し述べました。

令和元年度（2019）少子化対策応援ファンド

少子化対策応援ファンドは、秋田県の最も大きな課題である人口減少対応策として、子どもを産み育てやすい環境づくりや、子育て支援、婚活等の事業を対象としている。今年度から昨年度は対象としていなかった婚活等のイベントも募集することになった。予算総額は昨年と同じ360万円、それを子育て支援に190万円、結婚支援に170万円と分けて募集した。

選考委員は下表の方々に就任して頂いた。選考委員長は委員の互選により安宅英男氏にお願いした。

氏名	所属
安宅 英男	株式会社秋田魁新報社 総務局総務部長
小林 建一	秋田県立大学非常勤講師、前聖園学園短期大学教授
渡部 真由美	株式会社プレステージ・インターナショナル 取締役
佐々木 美奈子	NPO法人いきいきFネット秋田 理事 秋田県男女共同参画センター センター長
新号 和政	秋田県あきた未来創造部 次世代・女性活躍支援課 班長

今回新号委員は公務のため、代わって同課の石塚優大主事が審査に当たった。

4月14日（日）に募集を開始、5月14日（火）の締切りまでに子育て支援コースに10件、結婚支援コースに5件の応募があり、6月19日（水）に公開審査会を行った。昨年と比較して子育て支援コースの予算が減っているため、どの程度採択できるか不安があった。選考委員会では、全事業が必ずしも少子化対策の目的に適っているわけではないが、どの事業も意欲に溢れておりぜひ実施して頂きたいという選考委員の総意で、内容を精査し助成額を調整、全事業を採択とした。結婚支援コースは1件の辞退があり応募件数は4件となり、全事業採択となった。

応募、採択状況

	助成額	募集件数	応募件数	採択件数
子育て支援コース	上限10万円助成コース	0	0	1
	上限20万円助成コース	4	8	9
	上限30万円助成コース	2	2	0
	上限50万円助成コース	1	0	0
結婚支援コース	上限20万円助成コース	3	1	1
	上限30万円助成コース	2	0	0
	上限50万円助成コース	1	3	3

子育て支援コース： 20万円助成コース応募の1事業の助成額を10万円に減額して採択。

30万円助成コース応募の2事業の助成額を20万円に減額して採択したため、20万円助成コースが合計9件となった。

結婚支援コース： 募集と応募に大きな違いがあったが、全事業を応募通り採択。



プレゼンテーションの様子



審査結果の発表

採択団体

子育て支援コース



10万円助成

団体名 あきた海洋少年団（秋田市）
事業名 あきた海洋少年団結団式および結団

海洋少年団は、少年少女に対して海洋に親しむ機会を与え、海に係る活動やボランティア活動を通して、社会性や協調性を養うことを目的としている。

あきた海洋少年団は6月に誕生したが、さらに入団者を増やしていきたい。手旗信号、ロープワーク、水泳などの訓練や海についての学習や奉仕活動を行なうなど海を通じた体験活動を実施すると共に、9月の「全国豊かな海づくり秋田県大会」へ参加して活動してもらおう。

20万円助成

団体名 あきたっ子を健全に育む会（秋田市）
事業名 子どもの権利（人権）の啓発事業

近年、いじめなどで悩んだり、親から虐待を受けたりして悩んでいる子どもが多数みられる。その背景には子どもの人権を尊重する習慣が根付いていないという事情がある。この状況を改善するために、子どもたちと関わりをもつ人たちを対象に、子どもの人権の理解を進めるセミナーや研修会を開催すると共に、リーフレットを配布して啓発に努める。

団体名 そら子ママ英語サークル
「夢のわくわくクリスマスコンサート with エリック」運営委員会（秋田市）
事業名 子育て応援プロジェクト「夢のわくわくクリスマスコンサート with エリック」



「そら子ママ英語サークル」は、無料の英語イベント、会員制の英語あそびサークル等を企画し、秋田の子どもたちに英語を身近なものに感じてもらうための活動を行なっている。

今回エリック氏を招いてクリスマスコンサートを開催する。この事業を通して、親子頑張っって一緒に楽しむと共に、グローバルな世界へ目を向け、将来の夢を達成するためのきっかけ作りとなることを目指す。

団体名 食物アレルギーと共に歩む会「もぐもぐ」（秋田市）
事業名 食物アレルギーの子ども子育て応援事業



近年食物アレルギーを持つ子どもは増加傾向にある。食物アレルギーの理解啓発を進めることにより、理解者が増え、食物アレルギーの子どもを育てやすい安心・安全な環境を整えることを目的として、アレルギー専門医による講演会、「サムライエッグ」上映会、災害時のアレルギー対応の炊き出し体験などを実施する。

団体名 ☆ママとこどもの秘密基地☆実行委員会（横手市）
事業名 ☆ママとこどもの秘密基地☆

「一人で頑張る子育てから“繋がる”子育ての安心の場をつくる」をモットーに、親子で楽しめる「ママとこどもの秘密基地」を平成29年横手市、30年由利本荘市で開催してきた。今回は仙北市角館町で開催する。出店ブース、専門家によるママ・パパお悩み相談会、歌や人形劇のステージなど、多彩な出し物で親子で楽しみ心が解放されるイベントを目指す。

団体名 FluffyCheek（横手市）
事業名 子育てNEW WAVE ～広がる・つながる・笑顔の育児～

子育てに携わる人たちが楽しめるイベントを開催し、子育てを支援したいという目的で、「おひるねアート撮影」、「petapeta-art 制作」、「歯固めジュエリー制作」の体験イベントを秋田市、横手市、大仙市、仙北市、由利本荘市などで20回程度実施する。テレビやSNS等で紹介され大人気となっているこのイベントを通して、子育て支援、さらに女性の活躍、起業へと展開していくきっかけを作っていきたい。

団体名 NAOのたまご（秋田市）
事業名 時には親の日：ふわふわ

障がい児を持つ家族は、その子の療育が中心となって、なかなか自分の時間を持っていない。今回の事業は、時には未就学の子や障がいのある子どもを預かってもらうことで、親に有意義に過ごすための時間をプレゼントし、少しでもゆっくりしてもらいたいというもの。親は、医師・看護師・保育士などを配置し万全な備えをした場所に子どもを預かったのち、3時間ほどを自由に過ごすことができる。2回開催予定。
このような活動が広がり、子育て世代がリフレッシュして、気持ち新たに子育てに向かうことができるようになることを目指す。

団体名 まることびおら（大仙市）
事業名 みんな遊びにおいで！まるこ10周年まつり



大仙市の子育て支援施設「まるこの広場」が設立から10周年を迎える。それを記念して9月8日「まるこ10周年まつり」を開催する。これまで広場を利用してくれた方々への感謝の気持ちを込めると共に、まるこまつりを広くPRし利用拡大を図る。



団体名 のしろ：子ども未来プロジェクト実行委員会（能代市）
事業名 子育てキラキラフェスタ in のしろ ～『木育』つながる森のめぐみとこどもたち～

能代市で子育てに優しい街作りを目指して、そのスタートとして「子育てキラキラフェスタ」を開催する。木都能代の良さを伝えるべく、木のおもちゃを楽しむイベントとする。このイベントをきっかけに、多くの人に子育て環境整備の必要性に理解を持ってもらい、子育て親子や世代を越えて利用できる施設の設置に向けて活動を広げていく。

体名 能代おやこ劇場（能代市）

事業名 花咲かせプロジェクト2019 「サーカスエンターテイメントショー・ブラビッシモ！！」
×子ども食堂

能代おやこ劇場では、プロの舞台を地域の子どもたちに無料で届ける「花咲かせプロジェクト」を毎年開催している。今回は12月1日に実施する。その際昨年と同じく、地域で子ども食堂を開催している「向能代子ども食堂」と提携し、希望者に食事を提供する。

この事業を通して、子どもたちが優れた文化に触れる機会となり、地域における子どもたちの文化活動がひろがることが期待される。また現在は一部でしか実施されていない子ども食堂への周知・理解の機会としたい。

結婚支援コース

20万円助成

団体名 秋田県自然観察指導員連絡協議会大曲・河仙支部（秋田市）
事業名 花の百名山秋田駒ヶ岳トレッキング+プラス



日常の生活ではなかなか出会いの機会が少ないという独身男女のために、花の百名山秋田駒ヶ岳のトレッキングと田沢湖そば粉を使用したそば打ち体験交流会を開催する。オリエンテーション、トレッキング、そば打ちと複数回交流の機会を設けることで、より多くの「出会い」につながることを期待している。

50万円助成

団体名 能代商工会議所（能代市）
事業名 交流出会いパーティ in 能代

能代商工会議所では、過去にも交流出会いパーティを開催してきたが、参加者がコミュニケーションをうまくとることができず、出会いの場を活かしきれていないと感じてきた。そこで今回は、講師を招いて第一印象を決める服装や、コミュニケーションのコツなどを学ぶセミナーを男女別を実施し、その後で交流パーティを開催する。セミナーが功を奏して出会いの場が有意義なものとなり、カップルの成立に結び付くことを期待している。

団体名 秋田魁新報社（秋田市）
事業名 ブライトブーケパーティ

ホテルの結婚披露宴を行うようなゴージャスな会場で、おしゃれをして参加する婚活イベントを開催する。ここに羅漢氏やDJ BERABOW氏によるミニライブをコラボさせ、音楽イベントの魅力でより多くの人に参加を促すという企画。これまでなかった楽しくワクワクするような新しい婚活イベントを目指す。

団体名 いきいきFネット秋田（秋田市）
事業名 ハーモニープラザのMARRIAGE SCHOOL

アンケート調査により、若者の結婚観、親世代との意識ギャップなど秋田の課題を明らかにし、報告書を作成する。またそこで出てきた課題解決のために、研修や実習、エクスカッションなどの講座を開催する。日ごろから男女共同参画社会の実現を図る活動を実施している団体ならではの婚活イベントに取り組む。

第21回本ファンド（2019年度第1回）助成事業決定

第21回本ファンド助成事業は、5月6日～6月6日に募集、同時に秋田銀行行員有志からの資金提供による冠ファンド「秋田未来づくりファンド」と秋田魁新報社からの寄付金で組成した冠ファンド「秋田魁新報社がんと生きるファンド」の募集も行った。

今年度は選考委員の改選期で、4月の理事会で下表の委員が選任され審査にあたることになった。

渡邊 靖	秋田商工会議所 まちづくり推進課課長
三浦 美由紀	E n - L i n k 代表 (北秋田市)
鎌田 晶子	秋田県企業活性化センター 秋田県よろず支援拠点コーディネーター
佐々木 美奈子	NPO法人いきいきFネット秋田 理事 秋田県男女共同参画センター センター長
安宅 英男	株式会社秋田魁新報社 総務局総務部部長
沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
須磨 武	秋田県あきた未来創造部 地域づくり推進課 地域協働推進班 主幹(兼)班長

秋田銀行の冠ファンドの審査には、秋田銀行地域未来戦略部の田村健氏に加わって頂いた。
秋田魁新報社の冠ファンドの審査については安宅委員に兼ねて頂いた。

7月6日(土)遊学舎での公開審査会では、件数が多いので、プレゼンテーションを各団体説明10分、質疑応答5分と短縮して実施した。午前中に冠ファンドのプレゼンテーションを行い、選考委員による協議を経て11時40分に講評と結果発表を行った。午後は12時40分から3時過ぎまで本ファンドのプレゼンテーションを行い、その後選考委員による検討協議に入った。申請数が多く、特に50万円コースは募集2件に対して6件の申請があり協議は難航。10万円コースは1件多く採択、50万円コースの1件を30万円に減額して採択するなど調整し、4時10分には講評、発表にこぎつけることができた。採択された団体、不採択の団体と明暗が分かれる厳しい選考であった。

募集、応募、採択状況

助成額	募集件数	応募件数	採択件数
上限10万円コース	2	4	3
上限30万円コース	3	3	3
上限50万円コース	2	6	2
冠ファンド 秋田未来づくりファンド			
上限20万円コース	1	1	1
上限30万円コース	2	2	2
冠ファンド がんと生きるファンド			
上限10万円コース	2	1	1



審査員のみなさん

採択団体

本ファンド

10万円助成

団体名 あきた乾癬友の会（秋田市）
事業名 患者会立ち上げ事業 患者会設立による「治療に向き合っていくための場づくり」と「乾癬の正しい知識を普及」する活動

「乾癬」とは、皮膚の炎症症状を伴い慢性の経過をとる病気。県内に4千人の患者がいると推計されている。人から人にうつる病気と誤解されたり、その見た目から不潔と思われたりすることが多く、市民から理解が得られていない。今回患者会を立ち上げ、患者同士が悩みを共有しながら治療に向き合う場を作ると共に、市民公開講座、患者学習会・親睦会、会報の発行などを実施する。

団体名 傾聴ボランティア秋田「ダンボの会」（秋田市）
事業名 傾聴ボランティア スキルアップ講座

ダンボの会は、高齢施設等で傾聴活動を実施しているボランティア団体。傾聴は、高齢者の心に寄り添い前向きな気持ちに導くと評価され、高齢化の進む秋田では必要性が高まっている。今回会員と一般にも呼びかけて、専門講師によるスキルアップ講座を行う。傾聴活動の一層の活発化と地域福祉への貢献を目指す。

団体名 混声合唱団 横手フィオレンテ（横手市）
事業名 音楽パワーで地域を元気に！歌でつながる地域連携型コンサート
～古の時を超え、昭和から平成、そして令和へと
歌い紡ぐひと時～



合唱団横手フィオレンテは、コンサート開催や地域で施設慰問のボランティア活動を行っている。今回、横手市で活動する複数のコーラス団体による協働事業として、「秋のコンサート」を10月6日に開催する。地域文化活動の向上と、単独ではなかなか発表の機会を得られない団体が経験を積む機会とする。このコンサートを通して、参加するコーラス団体の活動の活性化と、慰問活動などの促進を図っていききたい。

30万円助成

団体名 あぶこれ（大仙市）
事業名 生薬資料展示会（龍角散資料展示）

江戸時代、佐竹藩の御典医だった藤井家が秋田市で龍角散を創設、美郷町と八峰町の生薬を使用したと言われている。このことを認知して頂くために、秋田市と美郷町六郷で、生薬と龍角散の資料展示を実施する。展示資料は、大仙市の藤井薬局と個人収集家から借用する。

地域の歴史文化の認知と地域の活性化を目指して、将来の生薬資料館設立を呼びかける機会とする。

団体名 あきた花咲く教師力ネット（秋田市）
事業名 教師・医師・保護者で学び広げる特別支援教育講座

この団体は、学校、家庭、地域の教育力向上を目的に、毎年研修、セミナーなどを実施している。近年、発達障害の子どもや、主に環境からの要因で愛着に問題を抱え、発達障害に近い子どもも増加し、その対応に多くの保護者や教職員が苦慮している。そこで今回は医者や専門家から対応策、保護者からは実体験について学ぶセミナーを8月17日に秋田県教育会館で開催する。

団体名 秋田たすけあいネットあゆむ（秋田市）
事業名 子どもの貧困と私たちにできること」講演実施

この団体は、困窮家庭、特に子育て世帯を対象に、食糧支援、無償の学習塾、制服リユース、親子食堂などを行っている。こうした「子どもの貧困問題」に多くの県民が関心を持ち、「貧困はある」という現実を認識してもらうことを目的に、社会活動家であり、全国こども食堂支援センター理事長の湯浅誠氏の講演会を開催する。講演のテーマは「子ども貧困問題と私たちにできること」。講演を通して、子どもたちへの支援が広がり、少しでも明るい未来を描ける子どもが増えることを目指す。

50万円助成

団体名 おおだて de 子育て（大館市）
事業名 「おおだてファミリーカフェ（仮称）」の創設

大館市内には子育て中の親子が集える場所がない。今回助成金で、子連れで集える場所、個人利用、講座利用、貸切イベント利用などに活用できる常設の場を大町に設置する。子育て中の方たちが交流&リフレッシュできる場、女性の幅広い働き方を応援する場、託児のできる場、大町商店街を訪れる高齢者と子連れの親子が交流するなど多世代が集える場など、多様な利用を目指す。

団体名 秋田太平山マラソン実行委員会（秋田市）
事業名 第4回 秋田太平山まんたらめの里マラソン RUN DAM

3年前から秋田市仁別周辺で地元の町内会と協力してマラソン大会を開催し、毎年400名弱が参加している。今年は第4回目となるが、今後も継続して実施するためには、参加者の増加と支援企業の獲得に努めなければならない。今回の大会で、地域一体となって自立して継続して大会を作り上げる態勢を作る契機とする。



冠ファンド 秋田銀行行員有志による

「秋田未来づくりファンド」

20万円助成

団体名 本庫 Honco
事業名 秋田再発見プロジェクト
「日本奥地紀行」を読む「探検家イザベラ・バード」がみた世界

英国の女性探検家イザベラ・バードが秋田に来たのは、明治11年。その著書「日本奥地紀行」の秋田の項を読み、その記述から明治期の秋田を知り、ふるさとにある文化資源を再発見する機会とする。4回の講座を実施し、その後イザベラ・バードについてさらに認識を深めることにより、既に研究の進んでいる東北地区の他県の研究会との連携を目指す。

30万円助成

団体名 CAP あきた
事業名 CAP あきた公開セミナー2019

CAP あきたは、子どもへの暴力防止活動を行う市民活動団体で、活動から20年を経過している。子どもたちの暴力問題を解決するためには、「子どもが安心して本来持っている力を発揮できる環境」を地域と共同で作ることが不可欠であると考え、今回2つの公開セミナーを開催する。講師は、家族問題やDV、少年事件を専門とする弁護士と、具体的な家族支援、子育て支援の方策を提供する大学教授。教育、行政、子育て支援関係者から一般家庭の人々までひろく参加してもらい、地域全体で子どもへの暴力防止に取り組む機運を高める。

団体名 のしろまち灯り実行委員会
事業名 2019：のしろまち灯り木育イベント
～大好きな『木』を使ってみんなでコロコロドミノを作ろう～

中心市街地活性化と木のまちづくり、環境のまちづくりをコンセプトに毎年実施されている「のしろまち灯り」。この中で、2年前から子ども向けイベントとして「木育ひろば」を開催している。今回「からくりおもちゃ」「木の端材を使ったドミノ」「木のプール」など、木のぬくもりを活かした事業を実施する。木都能代の将来の地域づくりに繋がるイベントを目指す。



「秋田魁新報社 がんと生きるファンド」

10万円助成

団体名 Third place AKITA
事業名 AYA 世代がん経験者へ “あなたひとりじゃないよ” プロジェクト

AYA 世代とは、Adolescent and Young Adult の略で、15歳から30歳前後の思春期・若年成人を示している。AYA 世代のがんの罹患および死亡率は最も低く、これまでがん対策の対象とはなされていなかった。しかし、近年がん罹患年齢の若年化が進む中、就学・就労、将来への不安、ストレスなど、AYA 世代ならではの困難が問題となっている。AYA 世代同士が集い、悩みを分かちあう場を作り、情報や思いを共有することで、前を向いて進めるきっかけを作ることができる。

今回、AYA 世代のがん患者が集うカフェを、アドバイザーの医師や看護師も同席して秋田市内で開催する。また代表たちが充実したカフェ運営に向けて、他県の研修会やカフェに参加し、研鑽を積む。将来は活動を県内全域に広げることを視野に入れていく。

助成金でこんな活動をしました

間伐材と支障木の活用

(第20回本ファンド助成30万円助成) 団体名：トープ・木こりっこ(北秋田市)

北秋田市では、近年山林の手入れの担い手不足による森林荒廃が進んでいる。今回里山整備に取り組み、そこから出る間伐材と支障木を活用する事業に取り組んだ。間伐材は木ろうそく、箸、炭、キノコ種木に加工、支障木は薪、木工加工材にした。

森林組合、秋田森づくり活動サポートセンターなどの指導や、林業の先輩から伐採工具の教習をして頂いたことなど、ネットワークが出来たことでスムーズに作業ができた。

これからも木材を価値あるものになるような地域づくりに繋げていきたい。



※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

あきたスギッチファンド寄付者一覧(2019年4月~7月)

団体・企業等	株式会社福岡ドライクリーニング、あくら、みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、ダイドードリンコ株式会社、有限会社ワタ商事、株式会社伊藤園秋田支店、サントリービバレッジサービス(株)秋田支店、奥羽住宅産業、紡ぐ人実行委員会、スギッチ応援隊、同路人、秋田エアロフェスティバル実行委員会
個人	田口良実、北嶋正、武藤馨、堀井啓一、田畑薫、小林祐子、菅原勝康、菅原拓男